

「災害および避難所・避難所生活者用」弾性ストッキングの普及促進に向けて

■「災害用弾性ストッキング」の必要性について

◎エコノミークラス症候群対策と弾性ストッキング

阪神・淡路大震災、新潟・中越震災、東日本大震災、熊本地震といった大災害を重ねる度に、災害発生時の避難所生活者に対する健康管理の視点から、エコノミークラス症候群や下肢静脈血栓症の予防対策として「弾性ストッキング」の効果とその有用性が再認識されています。

最近では、災害対策基本法の改正とともに、内閣府による自治体の防災行政に対する『**避難所運営ガイドライン（平成28年4月）**』が作成され、災害時のエコノミークラス症候群予防対策として「弾性ストッキング」の配布を推進することが明示されております。（平成28年熊本地震災害時は、メーカー有志による寄付のみでの供給数不足に鑑み、行政（厚生労働省）自らが「弾性ストッキング」を購入し、被災地へ供給した実例もございます。）

■「災害用弾性ストッキング」業界団体発足のご案内

1) 設立趣旨

「災害関連死ゼロ」を目指し、市場に流通する弾性ストッキングに対し、エコノミークラス症候群の予防対策に最適化された仕様基準を定め、医療機器メーカーと一般靴下メーカーの垣根を越えた業界横断的な「認定ブランドマーク」を付与した商品（災害用弾性ストッキング）を、防災備品および被災生活者必需品として供給する仕組みを構築して参ります。

「認定ブランド」として提供される**災害用弾性ストッキング**は、関係医学会による認定のもと、各自治体との間で締結する「防災協定」の枠組みの中でのみ供給していきます。

2) 設立体制と事業目的

防災＆避難所生活における弾性ストッキング普及活動の第一人者である「榛沢和彦医師（新潟大学呼吸循環外科）」の働きかけの下、過去の災害時に弾性ストッキングの寄付活動に参画してきたメーカー有志が参集し、災害用弾性ストッキングの普及推進に向けた業界団体を設立しました。

- 団体名称： **災害用弾性ストッキング協会** (Elastic Stocking Association for Disaster Prevention)
- 事業目的： (1)災害用弾性ストッキングの普及・啓発
(2)災害用弾性ストッキングの仕様統一
(3)災害被災地への災害用弾性ストッキング供給窓口
(4)「弾性ストッキング」に関するセミナー等の企画・立案・実施運営
(5)その他、当協会の目的を達成するために必要な事業
- 役員：
 - ◎代表幹事： 石塚 真人（東レ・メディカル株式会社 医療用具事業部門 マーケティング室長）
 - ◎副代表幹事： 田坂 寛（福助株式会社 代表取締役社長）
 - ◎事務局長： 山下竜一（株式会社アステラ 代表取締役社長 兼メディカルソックス事業部長）
- 参画企業： ○株式会社アステラ ○アツギ株式会社 ○アルケア株式会社
○岡本株式会社 ○九州メディカルサービス株式会社 ○グンゼ株式会社
○東レ・メディカル株式会社 ○ナック商会株式会社
○日本コヴィディエン株式会社 ○福助株式会社 ○三ツ星靴下株式会社
- 後援学会： 日本静脈学会／避難所・避難生活学会

■「災害用弾性ストッキング協会」の役割

災害発生時、“安心・安全”に「弾性ストッキング」を供給していくために。

予測不能な災害発生にあつて、混沌とした防災活動の現場では『避難所運営ガイドライン』に則したカタチで「弾性ストッキング」を配布される段階になって「弾性ストッキング」そのものの仕様や表記に一貫性がなく、協働支援者である保健・医療スタッフや利用者そのものに戸惑いを与えている実態があることが分かっています。

「災害用弾性ストッキング協会」では、過去の災害時に「弾性ストッキング」の寄付活動を推進してきた経験と教訓を基に、防災現場での「弾性ストッキング」をとりまく諸問題に対し、明確な基準と仕組みを明示し、“安心・安全”な「弾性ストッキング」の供給に貢献して参ります。

①「商品仕様」の統一化

- 「災害用弾性ストッキング」の商品仕様は、関係医学会が血栓予防用として推奨する基準に準拠し、取扱メーカー各社が新たに製品化することなく供給できるアイテムの中で、安定的な生産ライン（国内・海外）によって製造可能な仕様として統一化します。

【商品仕様】

- ◎加圧レベル：（足首周囲）16～22mmHg （ふくらはぎ周囲）7.5～17.3mmHg
- ◎タイプ：ハイソックスタイプ（つま先あり/つま先なし）
- ◎原材料等：ナイロン・ポリウレタンを主材とし、生地厚等は各社仕様に準じる。
- ◎サイズ展開：4サイズ（S・M・L・XL）展開以上を必須とし、サイズ表記を明示する。

②「医療機器登録」商品の推奨

- 協会が認定する商品は、商品の測定方法や生産基準の規格統一の“公平性”を担保する観点から、原則的に、医療機器登録された商品を対象とします。医療機器未登録アイテムについては、協会内設置の「商品規格委員会」での認定審査を求め、“安心・安全”な商品を供給できるようにします。

③「梱包仕様」の統一化

- 協会が認定した商品には、災害用弾性ストッキング協会の「認定ブランドマーク」を掲出し、自治体等に供給する際の梱包段ボールは、認定ブランドオリジナル仕様の段ボールもしくはステッカーを用意する予定です。また、装着ガイドライン（履き方や留意事項）を同梱（添付）し、装着時の注意点や弾性ストッキングが禁忌となる方への注意喚起もきちんと対応していきます。

■「災害用弾性ストッキング協会」の強み

- ◎過去の震災時に発災現場へ「弾性ストッキング」を寄付供給し続けてきたメーカー有志が参集していることから、防災対策における知見が豊富です。
- ◎現時点で、国内最大の「災害用弾性ストッキング」団体であり、初動・急性期のみならず慢性期に対する潤沢な供給量を確保できるネットワークを有します。
- ◎関係医学会との連携により、フォロー体制の整備・構築の円滑化に貢献していきます。